

麦類の栽培ポイント

今年は播種期の降雨が少なく、麦類の播種は順調に進みました。また例年にないほど気温が高く推移し、降水量が少ない傾向が続いています。そのため今年の麦は平年に比べ生育が早まっているようです。

気温の影響もあり、早い時期から雑草が発生しています。今後の気温上昇にともない更なる増加が心配されますので、発生初期に防除を行いましょ。また、高品質麦の安定生産に向けて次の対策を実施しましょ。

1. 麦踏み

麦踏みは、地上部の過剰生育を抑制しながら、分けつを活発にし、根張りを深くするとともに、耐寒性を増大させる効果があります。

踏む重さは、人の体重くらいが適当です。なお、降雨・降雪後で、圃場が水分を多く含んでいる時や凍結層がある時は逆効果なので行わないようにします。麦踏みは10～14日間隔を空けて、茎立ち期（例年3月上中旬）までに3回以上行って下さい。今年は気温が高いため、早すぎる茎立ちを抑制するため麦踏みをしっかりと行いましょ。

2. 排水対策の徹底

麦は全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。時々排水溝を点検し、必要に応じて、溝さらいを行いましょ。まだ排水溝を設置していない圃場は、3月以降の降水量の増加に備え、早期に設置し排水対策を実施しましょ。土壌を乾きやすくすることで、麦踏みも行いやすくなります。

3. 雑草防除

雑草の発生状況を観察して、除草剤を散布しましょ。また、毎年同じ成分の薬剤を使用すると、特定の雑草が増えやすくなりますので、使用する薬剤をローテーションしましょ。

イネ稲こうじ病の防除

イネ稲こうじ病は籾に暗緑色の病粒を形成する病害で、病原菌は土壌中で越冬し、翌年以降のイネに再び感染します。ここ数年、足利でも増加傾向で、ライスセンターの搬入物にも被害粒の混入が確認されています。出荷物に稲こうじ病の被害粒が1粒でも混入していると、農産物検査で規格外となってしまいます。

幼穂分化期～穂ばらみ期に降雨が多く、気温が低めの状態が続くと多発します。昨年は高温・少雨であったため発生が少なかったですが、発生したことがある圃場の土壌中には菌が残っています。今年の気象条件によっては大量発生する可能性もあります。

この病害は多肥栽培で発生が助長されます。適正施肥を徹底し、移植期や穂ばらみ期に適切な薬剤防除を行いましょ。



イネ稲こうじ病の被害粒

(裏面あり)



雪害防止に向けた技術対策

降雪等によりパイプハウスが倒壊する恐れがある場合には、気象庁からその旨の気象情報が発表されます。

これらの気象情報を注視し、園芸施設の管理を適切に行いましょう。

事前の対策

1. ハウスの被覆資材の破れや隙間の点検、補修等により、保温性向上に努める。
2. 谷樋など荷重が集中すると思われる部分を特に補強する。
3. 基礎部分が腐食している場合は、パイプの交換や補強資材により、強化を図る。
4. 基礎の沈下を防ぐため、谷樋からのオーバーフロー防止対策を講ずる等、施設の保守管理と構造強化に努める。
5. 停電した場合に備え、かん水に必要な水をタンクに貯めておく。

降雪直前からの対策

- ・ チェックリストを活用して、保守管理を確認する。
- ・ 積雪前に内部被覆を開放した上で暖房を行い、融雪対策に努める。
- ・ 積雪深がハウスの耐雪強度を大きく上回る場合は、被覆資材を切断除去することで施設への積雪を防ぐ。

降雪前のチェックリスト

情報収集	①	最新の気象情報、警報、注意報を常にチェックしていますか。
融雪準備	②	暖房機の燃油残量は十分にありますか。
	③	暖房機は正常に作動するか確認しましたか。
	④	(発電機を持っている場合) 非常用発電機を加温機、環境制御装置に接続し、動作確認を行いましたか。
補強対策・雪の滑落促進	⑤	ブレースや筋かいの留め金具に緩みがないか点検しましたか。
	⑥	基礎部、接続部分、谷の樋・柱に腐食・サビはありませんか。
	⑦	谷樋や排水路、ハウスの際などの残雪やゴミは取り除きましたか。
	⑧	準備していた中柱をたてるなど応急的な補強はしましたか。
	⑨	作物を栽培していないハウスは被覆資材を外しましたか。
	⑩	被覆材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物はありませんか。
	⑪	雪の滑落を妨げる防風ネットや外部遮光資材等が展張されていませんか。

※ 詳しくは、一般社団法人日本施設園芸協会の「平成26年2月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針」をご覧ください。 <http://www.jgha.com/files/houkokusho/26/yuki.pdf>